

近隣自治体の合意も再稼働の条件に！



原発から30km圏内の議員研究会が発足

柏崎刈羽原発からおおむね30km以内に位置する市町村の議員が集まり、「柏崎刈羽原子力発電所30km圏内 (UPZ) 議員研究会」が、8月30日、各市町村から43人の議員の加入の下で発足しました。

避難計画の策定義務を負った原発30km圏内の各自治体として、東京電力との間で「事前了解権」を有した安全協定を締結することをめざす研究会です。

上越市議会からは、日本共産党議員団の3議員の他、牧田正樹(副会長に就任)、渡辺隆、滝沢一成、鈴

木めぐみの各議員が加入しました。見附市で行われた設立総会では、役員などを決めたほか、記念講演として、原電との間で「茨城方式」の新たな安全協定を結んだ東海村の元村長、村上達也氏のお話を聞きました。

総会で会長に選出された見附市議会の関三郎議員は、「(県の検証結果が出るまでに)残された期間は2年程度と思うが積極的に活動したい。次世代のために不退転の姿勢で取り組んでいく」と決意を語りました。

記念講演を行った村上元村長は、冒頭から「原発推進は国策と言われ

るが、国策とはなにか、あの戦争を進めてきたのが「国策」ではないか」と指摘。「国策」は地域社会と住民を無視してきたこと、実効性あ

る避難計画の策定はもはや絶望的であることなどに触れながら、「水戸への出張の際に、車窓からの家並みと福島の人々の風景が重なって寒気を感じ、安全協定の範囲拡大を決意した」と語りました。

そして、「周辺自治体の首長への働きかけでの苦労は」との問いに、「周辺自治体は原発を造っている日立製作所の影響下にあるので心配していたが、実際には福島事故の経験が生きていてスムーズに進んだ。立地自治体の首長が呼びかけて無視はできないだろう」と答えました。

また、「住民保護には地方分権が重要。分権意識と自立意識が原発への姿勢にも関わっている」「お上の顔色をうかがっているのは住民を守ることにはできない」と強調しました。

補正予算の基本的編成方針は？

市内経済対策盛り込まれず

橋爪議員が総括質疑

2日、9月定例議会が始まりました。

今議会では、昨年度の決算の審議に加え、新型コロナウイルス感染症に対応した補正予算が審議されています。

議会初日、市長の提案説明に続き、各会派からの総括質疑(提案内容に関する質問)が展開されました。日本共産党議員団からは、橋爪議員団長が次の点を中心に質疑を行いました。市長の答弁など詳しい点は次号で紹介します。

《決算認定について》

◇ 広島平和記念式典への中学生派遣について、「派遣人数を8人と変更したことから、これま

で課題であった市民に向けた報告会を実施することができ、体験の共有を図ることができた」という総括は一面的ではないか。改めて全体的な総括を聞きたい。

《「監査委員活動費」の「工事監査」の中で「女性の監督員・作業員のための施工現場の在り方について、検討を要望した」とあるが、この結果はどうなったか。また、こうした女性の視点

は他の監査委員活動の中でどう生かされているか。

◇ 「園芸振興事業」で、電気柵の設置や捕獲等を通じて鳥獣被害対策を積極的に進めてきたとし

ているが、イノシシによる水稲被害など鳥獣被害は拡大している。今後更なる対策強化が求められているが、改めてどのように取り組む考えか。

《補正予算について》

◇ 今回の補正予算編成に当たって、市内経済対策を盛り込まなかったが、基本的な方針について聞きたい。

◇ 斎場整備事業では、事業者選定に係るアドバイザー業務委託に多額の補正予算が計上されているが、具体的にはどのような業務を委託することになるのか。また、事業者選定までの流れはどのように進むのか。

日本共産党上越市議員団ニュース
No.672 2020年9月6日
連 橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
絡 上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
先 平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田(金谷区))